

麦の播種に組み合わせる イネ科難防除雑草の新しい防除法

筑後分場

1 背景、目的

近年、福岡県では麦類の単収低迷が問題となっており、要因の一つとして雑草害があげられます。そこで、播種期の雑草発生量の低減を図るため、専用の不耕起播種機を考案し、播種と組み合わせた雑草防除体系を確立しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 新しい雑草防除法は、播種1ヶ月前にはほ場を耕す「事前浅耕」で浅い層（約5cm未満）にある雑草種子の発芽を促し、「不耕起播種」で深い層（約10cm）にある雑草種子の出芽を抑制します。非選択性除草剤と土壌処理用除草剤を混用して、播種1～8日後に散布します（図1、一部データ略）。
- 2) 「不耕起播種」に用いる播種機は、既存の播種機に播種条の溝を切る爪（深耕カッター）4本を装備しており（図1）、製作費用は約27万円です。
- 3) 新しい雑草防除法では、慣行に比べると、1回の除草剤散布でカズノコグサ、スズメノテッポウ、ネズミムギ、カラスムギを低減できます（図2）。

3 主要なデータ、画像など

全耕二工程播種（慣行） 事前浅耕＋不耕起播種

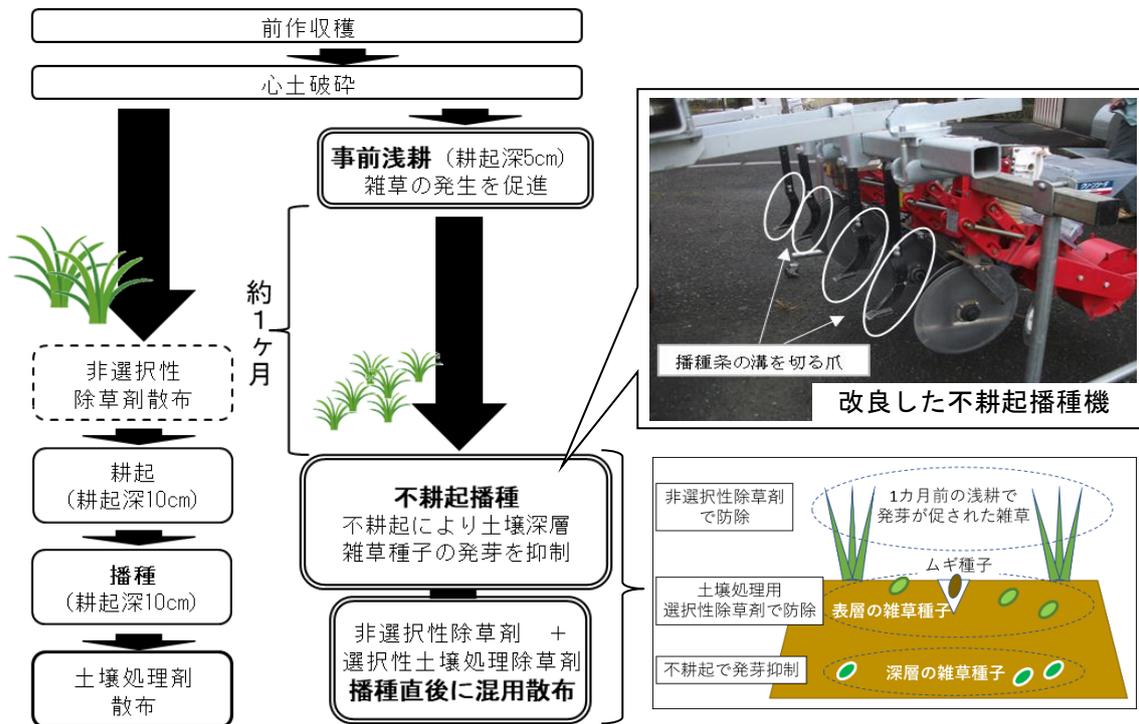


図1 事前浅耕と不耕起播種を組み合わせた雑草防除法

- 注) 1. 非選択除草剤はラウンドアップマックスロード 200ml/10a、
土壌処理用選択除草剤はリベレーターフロアブル 80ml/10a。
2. 爪は（株）キューホー製の深耕カッターを利用。

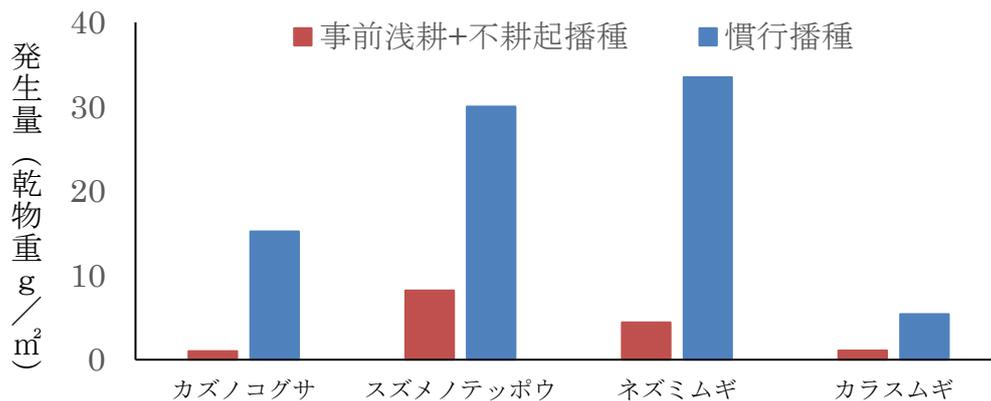


図2 事前浅耕と不耕起播種を組み合わせた雑草防除効果

- 注) 1. カラスムギは平成 29～30 年、それ以外は平成 28、30 年の 3 月 7～27 日に調査
2. 慣行は耕起後播種し、播種直後にリベレーターフロアブルを 80ml/10a 処理。